

美術句会（俳人 大高翔さんをお迎えして）
令和二年十一月二十九日 松任中川一政記念美術館

〈大高翔 抽出〉

一政のマジヨリカのつぼ冬日射す 栄子

山里の古き木犀香を葉る ゆりか

強き色優しさ秘めて寒椿 ゆき子

ふり返りふり返り去る薔薇の部屋 茂樹

字の勢ひ紙をはみ出し冬ぬくし 稔

こわがらず描いてごらんと薔薇が言う 和子

一政の太陽と逢ふ冬の朝 牛蒡

一政の孤高緋色の冬薔薇 恵

魂の筆を走らせ山笑う 智一

マジヨリカの騎士の眼差し冬銀河 和典

一政に叱咤されるし冬日かな 弘江

冬の日に明日目指したり阿吽獅子 敬子

柿の蒂の如き字をもて真を書す 朗

筆厚し山の鼓動と冬の空 喜代子

冬椿紺の背景きらめいて 邦子

〈大高翔 作品〉

天向くも地向くも自在冬椿

いまここで描け描けと冬の山